学校安全総合支援事業の取組について

～安全防災教育に向けた取組と豊野三校における連携の充実について～

長野市立豊野西小学校

1　はじめに

本校は今年度児童数が 328 名、各学年約２クラスずつの規模である。学校の周りにはりんご畑やぶどう畑が広がり、季節ごとに姿を変えていく果物の様子を間近で見ることができる。特に北側は丘陵地となっており、その斜面に広がるりんご畑や竹林・ぶどう棚の間は、低学年の散歩コースになっていて、豊かな自然に囲まれている。

長野盆地西縁断層の働きによって形成された緩やかな豊野の大地。校舎のベランダからは千曲川氾濫原の中に北陸新幹線が行き交う様子が見られる。その隣には浅川が流れ、千曲川は立ヶ花狭窄部に向かって流れ込んでいる。美しく豊かな自然の中に、長い間水害と戦い続けながらも逞しく生活し続けてきた先人たちの苦難が見えてくる。

災害から３年が経ち、避難所を経験した職員も少なくなってきているが、子どもたちや保護者・地域の皆さんが経験した心の痛みを忘れないよう、その時の対応を伝承し更に実践的な防災・備えをしていく必要がある。

2　長野市立豊野西小学校の防災体制について（概要）

(1) 今年度の防災にかかわる主な計画と実践

①避難訓練〔時期：主な内容：参加者〕

第１回：　４月 20 日（水）　児童 301 名　職員 28 名　参加
新教室からの避難経路の確認、職員係活動、集団下校並び替え

第２回：　６月 21 日（火）　児童 309 名　職員 28 名　講師１名 参加
不審者対等訓練
中央警察署生活安全課 スクールサポーター 滝澤喜美子さん

第３回：　９月２日（金）　児童 204 名　職員 27 名　指導者１名
休み時間、児童に日時を知らせない設定で行う。
信州大学　内山　琴絵先生

第４回：　11 月 10 日（木）　児童 194 名　職員 28 名　指導者１名
（11 月２日（水）　シェイクアウト訓練）
地震の際の停電により、緊急放送ができない場合の避難訓練
信州大学　内山　琴絵先生

②安全点検（月初めに実施）

③危機管理マニュアルの修正

④家庭、地域、関係機関等と連携した防災教育の推進

・外部機関と連携した防災教育に関する授業を教育課程に位置付けて実施

・地域と連携した引き渡し訓練を行ったり、懇談会の折りに引き渡し訓練の必要性、保護者の動き等の確認の場を設けたりするなどして、学校の防災の方針を保護者や地

域住民との間で共有を図る。
・住民自治協議会と連携した防災授業。
⑤三校合同引き渡し訓練
９月２日（金）　児童 204 名　職員 27 名　保護者 249 名　指導者１名
信州大学　内山　琴絵先生
⑥職員研修
10 月 18 日（火）　職員研修　職員 20 名　指導者２名
信州大学　廣内　大助先生
・教職員の学校安全に関する研修を実施。

安全防災管理面については、現在継続して行っている本事業の取組により避難訓練等の防災体制の見直しを図ってきている。

校内の避難訓練だけでなく、豊野三校の連携についても「三校合同引き渡し訓練」の実施により本年度踏み込んで実践することができた。同じ「豊野」で育ち生活をする児童生徒として、安全防災教育の一貫した指導をしていくことの大切さを三校ですりあわせながら大切に進めてきた。

防災教育としての知識と共に、「スムーズに児童生徒を保護者に引き渡すことができるような組織作り」を具体的に考えて保護者に伝え、実践していった。

３　学校防災アドバイザーの関わり

本校は信州大学廣内大助先生、内山琴絵先生にご指導をいただいている。先生方のご助言をいただきながら、今年度、本事業に参加させていただくに当たり次のような計画を立てた。

【安全防災教育に関して】
・授業実践の積み重ね
・カリキュラム作り
・職員研修
【豊野三校の連携に関して】
・統一したカリキュラム作り
・豊野三校で合同引き渡し訓練の実践

豊野住民自治協会後藤さんより防災教育の授業。
タブレットを使いハザードマップの確認。

実際に、次のような取組を行った。

(1) 全校での安全防災教育・避難訓練での実践
①信州大学　廣内大助先生・内山琴絵先生からのご助言
・「わが屋の防災タイムライン」（東京法令出版）を利用した授業実践の推進。
・家庭と連携を取りながらの実践。
・「ぼうさいまちがいさがし　きけんはっけん」を用いた授業実践の推進。
②豊野地区住民自治協議会事務局の方のサポート
・豊野町のハザードマップを利用した授業実践。（４・５・６年全クラス）
③信州大学　廣内大助先生による職員研修　　10 月 18 日　職員 15 名参加
・「学校は災害にどう備えるのか」

東日本大震災、長野県は災害が少ないのか
どう備えるか？防災管理の取組
防災教育（いざという時、自ら行動できる生徒へ）
2016 年熊本地震から学ぶこと
（学校教職員と避難所の関わり）

職員研修　廣内大助先生より
「学校は災害にどう備えるのか」

学校評議員・ＣＳ運営委員の皆さんと災害時の対応について懇談

受付から各教室への動線。校内でも感染対策を取り、基本的に一方通行で移動。

④豊野三校共通の安全防災教育カリキュラムの作成

(2) 豊野三校合同引き渡し訓練の実践
①三校教務主任会を中心とした計画
②それに基づき本校の計画の立案
・教務会・職員会での提案
・係による役割分担（準備・当日）
・家庭・地域への周知・連絡
・回覧・路上での掲示物
・近隣への挨拶
（校庭一方通行による渋滞予想）
③廣内先生・内山先生の事前のアドバイスにより
今年度配慮をした点
・職員が児童の指導に関われるための工夫
・分かりやすい校内掲示（パイプ椅子と矢印）。
・校庭に駐車をする際の基本ルールの周知徹底。

パイプ椅子に矢印を示した校内表示

(3) 三校合同引き渡し訓練の反省から
①職員の振り返りから
・校内の経路表示は保護者から分かりやすいと大変好評だった。しかし、帰りの表示が無かったために再び受付の方に戻ってしまう方がいた。帰り道の表示も必要であることが分かった。
・いざという時に PTA メール一本で連絡が取れるのかが心配である。
②内山先生の事後指導から
・時間が経つごとに、回数を増すごとに、校舎の外で駐車案内をする職員の数は減らしていくと良い。将来的には保護者が自主的に駐車できると良い。
・ただし、駐車場での歩行者との接触事故の恐れがある。雨で視野が悪く、傘もさしているため、互いに見通しが悪い状態である点に気を付ける必要がある。

・豊野中学校では「学校タイムライン」を作成し、それに基づいて引き取りの判断を行っていた。今後本校でもタイムラインを作成し、保護者にも「こうなったら引き取りになる」という基準を周知しておけると良い。これは三校でそろえていきたい。
・保護者が車で迎えに来る際、いかにスムーズに動線を工夫するか考えて実施したが、それについても滞ることなく円滑に児童引き渡しが行えたとアドバイスをいただいた。

4　事業の成果及び今後の課題

【成果】

・防災アドバイザーの指導により更に専門的な観点から学校防災教育の在り方について本校の安全防災教育を見直すことができた。今後もより実践的で多様な想定に基づいた訓練を行っていくことで、子どもたちが“自分の命を守るにはどうしたらよいのか”を考え主体的な避難者として成長できるよう実践を積み重ねていきたい。
・豊野三校が連携して安全防災教育に取り組めるようになってきた。特に小学校においては「わが家の防災タイムライン」を高学年で活用し学習を進めることができた。
・これらの取組を通して、豊野に住む子どもたちが、水害があったから「こそ」安全防災について人一倍自分ごととして学ぶことができている。今後も子どもたちの気づきや学びの素晴らしさを位置付け広めながら取り組んでいきたい。
・子どもたちが一人一台のタブレットを使って、自宅や学校・通学路の危険性についてハザードマップと照合しながら確認することができた。自分ごととして捉えるには大変有効であった。今後も地域の安全マップ作り等の実践にも生かしていきたい。

【課題・今後に向けて】

・三校合同のカリキュラム及び本校のタイムラインを完成させ、保護者や地域と共通認識を図りながら水害・土砂災害等への備えをしていく。
・タブレット端末を活かした防災教育用アプリ「フィールドオン」を利用した学習活動を取り入れ、自分たちが実際に見つけた危険箇所等の写真や情報を地図上にデータとして落とし込み、クラスの防災マップを協力して作成し、家族や地域の皆様に発表するなどの取組を行っていきたい。
・実践によって明らかになった課題について改善しながら取り組んでいく。
・カリキュラムを整備し、東小と西小の子どもたちが同じ基盤に立ち、中学校での防災教育に臨めるようにしていく。

5　まとめ

防災アドバイザーの廣内先生・内山先生によるご支援ご指導は、専門的な見地から私たちでは気づかない視点を与えていただき、大変ありがたかった。豊野の子どもたちが「自分の命は自分で守る」という意識をさらに持ち、自分ごととして災害・水害について考えることができるよう、実践を積み重ねていきたい。

コロナ禍で地域と繋がることが難しい昨今だが、防災への意識を高めるためにも今後ますます豊野三校での安全防災教育の推進を図っていきたい。

（文責　教頭　酒井　啓喜）

豊野中学校における防災教育の充実に向けた取組について

― 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ―

長野市立豊野中学校

1　はじめに

本校は、昭和 32 年に開校し、今年度で 66 年を迎える歴史ある学校である。旧豊野町から、平成 17 年の市町村合併を経て、長野市立豊野中学校となった。また、平成 23 年には新校舎を建てたが、令和元年の台風 19 号の浸水被害を受け、校舎および体育館の１階部分をすべて改築した。

また、豊野中学校区は以前より、三校校長会が定期的に行われ小学校２校と連携し様々な事業を行ってきている。事業は三校教頭会が事務局となり、年間２回の合同職員会議のほか、教務主任会、児童生徒会、学力向上委員会を定期的に開催している。今年度行った合同引き渡し訓練については教務主任会が中心となって打ち合わせを行ってきた。

2　長野市立豊野中学校の防災教育について

(1) 令和２年度：前年度の台風 19 号による被災の状況から、豊野中にとって実際に起こりうる災害に対しての避難訓練を実施していく事とした。

① 想　　定：集中豪雨・土砂災害などに起因する洪水、１階部分の浸水の予測。

② 訓練内容：保護者に引き渡すまでの生徒の安全確保の方法の確認。
１階部分が浸水した場合の垂直避難。避難物資の運搬や、待機場所となる各教室からの避難状況の報告。保護者への引渡しの実施。

③ 実施時期：災害が起きた 10 月 13 日

④ 事前学習：訓練に伴い防災旬間を位置付け、各学級における防災タイムラインの作成や豊野地区の水害の歴史に関する講演会などを開き、学習を深めた。

⑤ 反省と課題：迎えに来た保護者に生徒を引き渡す段階で、連絡系統がスムーズに機能しなかった。車の渋滞を引き起こし多くの保護者にご迷惑をおかけする結果となった。

(2) 令和３年度：より現実的な避難に焦点を当て、想定や避難訓練の内容を検討した。

① 想　　定：午後から雨量が増し、浅川や千曲川が危険水位に達する可能性が高いことが考えられるため、授業を午前中で切り上げ、下校時刻を早める。

② 訓練内容：保護者への引き渡し訓練。

③ 事前の準備：想定を事前に保護者に伝え、迎えに来るか来ないかを家庭ごとに決めてもらう。
引き渡しの際に使用する「引き渡しカード」を準備。迎えに来る可能性のある人を、３人まで記入してもらい回収しておく。

④　防災学習：本年度新たに購入した「防災学習ノート」を利用した防災教育も実施した。

⑤　反省と課題：車による迎えは、50 家庭ほどが希望したため、保護者のための駐車場を確保して対応した。当日は、大きな混乱もなく、スムーズな受け渡しが実現した。

今までは豊野地区の小学校とは別々に行っていた引き渡し訓練を、豊野地区三校で連携し実施する。

避難を開始する判断の基準となる数値の具体化。

(3) 令和４年度：より現実的な想定として、豊野地区三校が全家庭への引き渡しを実施。

①　想　　定：台風の影響で千曲川の洪水の可能性が高まり、長野市から警戒レベル３が発令。気象庁の降水予想から、このあと警戒レベル４に達する可能性が高いとみられること、浅川や千曲川が危険水位に達する可能性が高いことが考えられるため、護者への引き渡しを行う。

②　訓練内容：体育館への一時避難、保護者への引き渡し訓練。

③　三校での連携：想定や保護者への連絡内容の統一。

保護者への発信までの連絡など。

④　当日の様子、反省と課題

参加人数：生徒 216 名、引き渡しに来校した保護者 188 名（引き渡し率 87%）

教職員 19 名、防災アドバイザー１名

開始時は受付に保護者が多数来校したため混雑した。ここでだいぶ並んだことが影響し、小学校での引き渡しが予定よりだいぶ遅れたという家庭もあった。

生徒は落ち着いていて避難し、引き渡しまで待つことができていた。保護者の協力、地区の協力が得られてありがたいと感じた。

職員からは計画細案を読みながらでないと動けないことも多いため、現在の計画から、大切なところだけ残すようにして簡略化し、万が一のときでも動ける避難マニュアルを作成してほしいという意見もあった。

⑤　防災学習

テキスト：『命を守る防災学習ノート』

割り当て時間：学活・２時間

各学年の単元配当案：〈１年〉01 災害の種類と特徴、02 人間生活と災害の関係、
03 台風・大雨に伴う災害への備え、04 大地震に備えよう
〈２年〉08 ハザードマップを確認しよう、07 わが家の安全確保
06 情報を使って災害を防ごう、わが家のタイムライン）

〈３年〉05 災害が都市を襲ったら、09 徒歩帰宅訓練、
10 マイ・ハザードマップを作ろう

３　学校防災アドバイザーの関わり

防災アドバイザー：　信州大学教育学部学校教育教員養成課程社会科教育コース
廣内(ひろうち)　大助(だいすけ)　先生

(1) 引き渡し訓練打ち合わせ

① 実施日：８月 22 日（月）9:40～10:40

② 内　容：９月２日に実施予定の避難訓練・引き渡し訓練について、訓練の内容や保護者への引き渡し方などについてアドバイスをいただく。
今年度作成したタイムラインを見ていただき改善点についてアドバイスいただく。

(2) 避難訓練当日

① 実施日：９月２日（金）14:00～17:00

② 内　容：避難訓練･引き渡し訓練参観、ご指導

③ 指導助言

ア　最初の 30 分とそれ以降　全体を見ながら本部からの指示で先生方の配置を変えていくといった柔軟な係活動を行っていく。

イ　毎年の訓練の積み重ねによって，よりよい方向に修正していって欲しい。

ウ　三校でタイムラインを共有し，避難のきっかけとなる「トリガー」を３校で決めておく。

４　事業の成果及び今後の課題

(1) 事業の成果

廣内先生からは、専門家のご意見をうかがうことで、私たちの防災教育を見直す機会をいただいた。豊野地区の三校の小中学校で、連携した保護者引き渡し訓練を実施したが、豊野地区全体の防災教育という観点で廣内先生、内山先生にアドバイスをいただき連携が充実したと考えている。

(2) 今後の方向

① 豊野中作成の「タイムライン」を共有。

② 三校でタイムラインを共有し,避難のきっかけとなる「トリガー」を決めておきたい。

③ 小学校と中学校の両方へ迎えに行く家庭もあるため、それぞれの学校で引き渡しまで待つ時間がなるべく少なくなるようにしていきたい。

（文責　教頭　岡澤　寿穂）

学校防災アドバイザー派遣・活用事業の取組について

町内保小中連携しての引き渡し訓練

飯綱町立飯綱中学校

1　はじめに

飯縄山の麓，長野市の北東に位置する本校は50余年前に牟礼村三水村の二つの村の組合立の学校としてスタートし，平成の町村合併による飯綱町の成立により，一町一校の中学校として存続している。生徒たちはふるさと飯綱の豊かな自然・文化・伝統を自分から意識することはないが，多くのところで感じている。「飯綱山こそ　われらが希望」と結ぶ校歌の一節はそれらを感じる心のありようを表すと同時に，学校教育目標である「自主」・「友愛」・「剛健」の基底をなしており，日々の学校生活を支えている。

○　自主　主体的，創造的に生活し，学ぶ楽しさを味わうことができる生徒

○　友愛　みんなの幸福を願い，豊かな情操をもつ生徒

○　剛健　明るくたくましい心身を備え，気力体力が充実した生徒

2　飯綱町保小中合同児童生徒引き渡し訓練実施計画

引き渡し訓練は令和２年度より始まり，今年度で３回目の訓練である。今年度は町内にある，飯綱中学校，保育園３園（さみずっ子保育園，りんごっ子保育園，南部保育園）と小学校２校（牟礼小学校，三水小学校）と保・小・中が連携しての引き渡し訓練を実施した。

≪目的≫

地震，洪水，凶悪犯の出没などの有事の際に児童・生徒を安全に保護者の方に引き渡すために，町内６小中学校保育園が連携して訓練を行う。

≪実施概要≫

(1)日時　　９月　１日（木）　　15:20～16:00

(2)想定　　地震

(3)事前指導　地震，火事，凶悪犯や熊の出没などの有事の際に，児童・生徒を安全に保護者に引き渡すための大切な訓練であることを事前に周知する。

(4)推進日程　８月19日　○職員会等で検討

８月22日　○家庭周知文書配布（飯綱中バージョン）

○「生徒引き渡し確認書」（家庭保存・学校保存）の配布

８月26日　○「生徒引き渡し確認書」（学校保存）の回収

８月30日,31日　飯綱町防災行政無線放送で告知（飯綱中バージョン）

(5)当日の動き

①情報配信システムスマート配信による情報配信（14：20）

②生徒は帰り支度をして，教室で待機する。

③引き渡し開始（15：20～を目安に）

※保育園，小中学校で兄弟姉妹関係がある場合は，中学校→小学校→保育園の順で引き取りをお願いする。

≪引き渡しの方法≫

「生徒引き渡し確認書（家庭保存）」の受け取りと照合

①引取者に，生徒氏名，生徒との続柄，ご本人氏名を名乗ってもらい，確認書と照合。

例）「（飯綱太郎）の（母）の（飯綱月子）です」

※「生徒引き渡し確認書」を持参していない場合の，引き渡し相手の確認方法

・運転免許証等の身分を証明するものとの照合

・申し出のあった氏名，住所，電話番号，続柄等が，引き渡し確認書（学校保存）と一致しているか

②該当生徒による照合(例)

担任：「こちらの方はどなたですか」生徒：「私のお母さんです」

③照合ができたら，名簿へのチェックをし，サインをしてもらい，引き渡す。

④「引き渡し確認書（家庭保存）」を返却する。

※兄弟関係がある場合には，次のクラスに回ってもらう。

⑤引き渡し完了報告

保小中相互で完了の旨を報告・確認する。

保護者へ生徒引き渡しの様子

引き渡し訓練中の駐車場の様子

3　生徒の振り返りより

・小学校の時にやったことがあったので，静かに移動したり先生の指示を落ち着いて聞いたりすることができた。移動の時に，もう少し素早く行動できたらよかった。

・自分はもし本当に起きたらどうなのかをイメージして真剣に引き渡し訓練ができた。小学校の時は体育館に集まっての訓練だったけれど，中学校では教室での訓練だった。

・実際に起きたらお父さんお母さんは来れるのかなと思った。実際に起きたことを想定しながらやるのは難しかったけれど，先生の指示にしたがって行動することができた。

4　事業の成果及び今後の課題

学校防災アドバイザー信州大学教育学部教授廣内大助先生より引き渡し訓練の様子を見ていただき，ご指導をいただいた。

・15:20から引き渡し時間になっていたが，引き渡しの準備ができていたら時間より前でも引き渡しを進めていく。（中→小→保の順で引き渡しを行うためできるだけ早く引き渡しを進めたい。）

・家庭保存用の引き渡し確認書は無くてもよいか。引き渡しも学校保存用の引き渡し確認書に名前が書いていない保護者のみ身分確認する程度にしてスムーズに引き渡しを行いたい。

・校内の案内については壁に矢印などの掲示を行うのではなく引き渡し場所の変更などができるようパイプ椅子などに学年別の色の矢印掲示することで動線が変更できる形にしたい。

計画通りに進めることや，丁寧に引き渡し確認を行うことも大切であるが，今回いただいたアドバイスから次年度はより現実的な形に変更し臨機応援に対応することも考えていきたい。

（文責　安全指導係　三村亮平）

防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について

－　様々な状況へ対応するための避難訓練の計画・実施および
神城断層地震から学ぶ防災教育について　－

白馬村立白馬南小学校

1　はじめに

白馬村は長野県の北部に位置する人口約 9,000 名の村である。本校は、児童数 100 名、職員数 17 名の山間小規模校である。保護者の多くは本村の基幹産業であるスキー場や宿泊施設で働いている。また、本村は、神城断層の上に立地しており、平成 26 年 11 月 22 日には、県北部を震源にした最大震度６弱を観測した地震（神城断層地震）の被害を受けている。豪雪地帯であるために家屋が比較的頑丈な造りであったにもかかわらず、特に堀之内・三日市場地区の被害は甚大で、全壊または半壊した家屋が多く見られた。幸いにして、命を落とした方はおらず、「白馬の奇跡」と言われている。現在在籍中の児童にとって就学前や生まれる以前の出来事であり、震災時の事を記憶している児童は少なくなってきている。

2　白馬村立白馬南小学校の防災体制について（概要）

本校は、年間３回の避難訓練及び、聞き取り訓練、引き渡し訓練をそれぞれ１回ずつ実施している。また、災害時には学校安全管理マニュアルに従って、教職員が防災組織を使った対応ができるように体制を整えている。さらに、安全の日を月１回設けて、校内の各自の管理場所を点検している。

(1) 年間の避難訓練計画

・聞き取り訓練　　４月７日

【目的】災害・火災時における緊急放送の情報を児童が正確に聞き取るための訓練

・第１回避難訓練　４月８日

【目的】学校管理下における児童の安全確保及び、教室からの避難方法・避難経路の確認

・児童引き渡し訓練　５月２日

【目的】自然災害や人的災害発生時における児童の安全確保及び、保護者への確実な引き渡しのための保護者、職員の訓練

・第２回避難訓練　　９月１日（事前予告なし）

【目的】地震発生に伴う児童及び職員の安全確保及び、教室からの避難方法・避難経路の確認

二次避難として、学校から指定避難場所への避難方法・避難経路の確認

・第３回避難訓練　12 月 15 日（11 月 22 日が神城断層地震発生日）

【目的】地震発生に伴う火災発生時の児童及び、職員の安全確保と冬季の避難経路の確認

(2)避難訓練の工夫

①二次避難を想定した避難訓練

本校は、土砂災害警戒区域に立地しており、降雨や地震など、複数の要素が重なった場合に校舎への被害が出ることが危惧される。実際に災害が発生した場合に、校内で避難したのちに二次避難をしなければならない状況も考えられるため、昨年度作成した避難確保計画に基づき、貞鱗寺・飯田公民館への避難を想定した訓練を計画している。今年度２回目の訓練では、飯田公民館へ二次避難を行った。土砂降りの中の避難だったが、より緊迫感が高まり、職員や児童たちも実感をもって訓練にあたることができた。また、飯田区のご協力も事前に仰ぎ、当日は「白馬南小学校　避難場所」の掲示をし、施設の開錠もしていただいた。有事の際の地域との連携についても確認することができた。

②避難経路の設定

本村は、冬になると積雪や屋根から大量の落雪があるため夏季と同様の避難経路を使えなくなる。そこで、第３回目の避難訓練は学校周辺が雪で塞がっている状態で火災が発生したという設定で訓練を実施した。出火場所を避け、より迅速に校舎外へ出て避難しなければならない場合に、北校舎の５、６年生は学校敷地の外周を廻って待機場所へ避難することになる。落ち着いて放送を聴くこと、冷静かつ瞬時に判断することが必要であり、職員や生徒にとって、緊張感が必然的に生じる訓練となっている。

③避難訓練の年間計画

今年度は３回の避難訓練及び、聞き取り訓練、引き渡し訓練をそれぞれ１回ずつ計

画し実施しているが、１回目の避難訓練は４月当初に計画し、１年生も避難経路の確認が早い時期にできるように配慮している。また、それに先立ち、前日には放送のみの聞き取り訓練を行い、事前にイメージを作りやすい場面を設定することで、配慮を要する児童も落ち着いた行動をとることができる一助になっているのではないかと考えられる。引き渡し訓練についても、新学期の生活に慣れ始めた５月上旬に設定し、緊急時に安全で迅速な引き渡しができるように計画している。２回目の避難訓練は地震と土砂災害や浸水被害を、３回目の避難訓練については地震と火災を想定し、それぞれ二次避難への対応、冬季の避難経路確認を目的として、時季にあわせて行うことで児童や職員が実感を持って訓練にあたることができた。

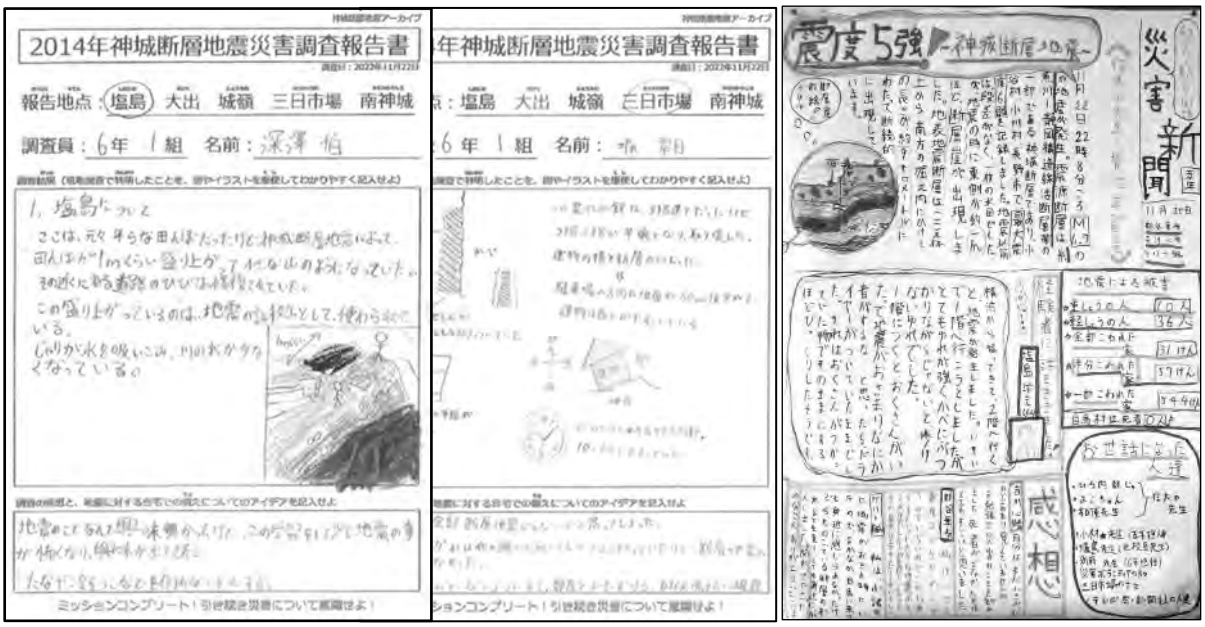
３　学校防災アドバイザーの関わり

今年度、防災アドバイザーとして信州大学の廣内大助教授、内山琴絵特任助教授にご指導をいただいた。年度当初のご訪問時に今年度の学校の防災計画や防災学習についてご指導いただいている。

５、６年生の児童は神城断層地震発生時には３歳前後であり、当時の記憶についても曖昧であったり、全く覚えていなかったりする児童が多い。児童たちは信州大学作成の震災アーカイブを活用し、地震発生時の村内の被害の写真や映像などから調べ学習を行った。

神城断層地震８周年の 11 月 22 日には、５、６年生が廣内教授の講義の受けた後、村内の震災の爪痕が残る場所へ赴きフィールドワークを行った。塩島地区では、保全され現在も調査が行われている地震によって隆起した地形の様子を見学、大出公園付近では、湧水帯も見学し、湧水と断層、地形との関係などについて児童たちは学んだ。また、三日市場地区の地震伝承館では、地震の被害の様子について、被害を受けた建物を実際に見ながら説明を聞き、内部に展示された資料を見ながら熱心にメモを取る児童たちの様子が見られた。最後に訪れたトレンチ調査の現場では、過去の地震の影響や断層の様子を間近で見学することができた。

帰校後、児童たちは印象に残った場所を取り上げ、報告書として学習をまとめた。また、５年生はグループごとに見学を通して学んだことをまとめて校内等にて掲示発表した。



４　まとめ（事後の成果及び今後の課題）

今年度は避難訓練に関しては、実施時期や計画について検討し、より実質的なものとなるよう実施した。また、役場や地区へも事前連絡し、連携できそうな部分については協力を仰いだ。近年の自然災害において「想定外の事態」に見舞われ、甚大な被害が出でしまうケースもあるが、平時より想像力を働かせ、最低限、実際に被害が予想される部分については対応を準備しておく必要がある。地域の組織や自治体との協働についても今後更に連絡を取り合いながら備えていかなければならない。

信州大学廣内大助教授より、二次避難の経路について、途中に土砂災害警戒区域があったり、浸水被害の可能性がある区域があったりするため、その時の状況に応じて避難経路を考える必要がある点や、数年単位で避難訓練の計画を立案していくとよい点、垂直避難の有効性などについてもご助言をいただいた。今後の防災計画に反映させ、生かしていきたいと考える。

防災学習については、今後、８年前の地震について実際に体験していない児童が大勢を占めてくるが、今回のような学習を継続して行い、地域で起きた震災について理解を深め、自分たちの学びをより多くの人に発信できるようになることが重要と考える。今年度実施していただいた廣内教授による防災教室のように、専門的な知見を持つ方々から児童の学びを深める機会を提供していただいたことは大変ありがたいことであり感謝している。児童がご教授くださった先生方や村の方々の想いを受け止め、今後に生かしていってくれることを願う。

（文責　教頭　長谷川松実）

栄小学校における防災教育の充実に向けた取組について

― 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ―

栄村立栄小学校

1　はじめに

栄村立栄小学校は、千曲川と山に囲まれた自然環境の中に立地している長野県最北端にある小学校である。冬に学校は雪に囲まれ、３ｍを超える雪が降り、校庭の雲梯やブランコが雪で埋もれてしまうほどである。

今年度は、45 名の児童が、「ふるさとを愛し、心豊かに、かしこく、たくましい子」を学校目標にして、学校生活を送っている。

本校は、12 年前の東日本大震災の翌日に起きた、長野県北部地震を経験した学校であり、日頃から防災意識を高め、自分の身は自分で守ろうとする力を育てていきたい。

2　栄村立栄小学校の防災体制について（概要）

(1) 第１回避難訓練　４月 11 日（月）２校時に実施

① ねらい　年度当初にあたり，災害（火災）発生時における基本的な避難の仕方や態度を身につける。

② 指導内容　ア. 雪のある時・ない時の避難経路の確認
イ. 緊急放送が聞こえた場合の対応
ウ. 火事や煙の恐ろしさについて
エ. 避難の仕方の確認
オ.「お（おさない）は（はしらない）し（しゃべらない）も（もどらない）」の確認

(2) 第２回避難訓練　８月 31 日（水）休み時間に実施

① ねらい　休み時間、地震が起きた際に、身を守る方法や避難のしかたを知る。

② 指導内容　ア. 合い言葉の確認・放送の聞き方・避難の仕方
イ. 緊急地震速報による避難
ウ. 避難場所の確認

(3) シェイクアウト訓練　９月７日（水）休み時間に実施

① ねらい　緊急地震速報が流れた際，その場にあった自分の身を守る行動ができるようにする。

② 指導内容　ア. 緊急地震速報の音が流れた瞬間に，自分の身を守る行動の確認
イ. 教室以外の場所における安全な場所の確認
ウ. 基本は「低く，頭を守り，動かない」
エ. 避難時には防災頭巾を着用する

(4) 第３回避難訓練　１月 11 日（水）２時間目に実施

① ねらい　積雪時における避難方法や避難場所を知る。

② 指導内容　ア. 雪があるときの避難経路・避難場所の確認
　　イ. 合い言葉の確認・放送の聞き方・避難の仕方

(5) 長野県北部地震の話　３月 10 日（金）朝の時間に実施予定
① ねらい　　地域の長野県北部地震体験者から震災の話を聞く。
② 指導内容　ア. 震災当時の状況
　　イ. その後の村づくりについての話

3　学校防災アドバイザーの関わり
(1) 本校の課題として、過去の震災の記憶が曖昧になり、危機意識が薄れている。「まさか来るとは…」ではなく、「やはり来たか…」の意識で災害への備えの心構えをどう育てていくかということが考えられる。地震時の避難訓練の工夫についてアドバイスをいただきたいと考えた。

(2) 避難訓練後のアドバイス
① ９月７日（水）シェイクアウト訓練
ア. 緊急地震速報を聞いたら、条件反射的に素早く行動できるように訓練できるとよい。（その場にしゃがむ、机の下にもぐる等）
イ. 高学年の児童が並ばせていたことがよかった。次の行動が分かっていて指示ができたと思う。
ウ. 防災頭巾を被れればよいが、なかれば赤白帽子など手近にあるもので頭を守れるとよい。
エ. オープンスペースから教室へ戻った子どもがいたが戻らない。その場でベストな行動ができるように、一人でいるときはどうするのか、指導できるとよい。
オ. 体育館と２階廊下のつなぎ目と、その１階部分は危険なので、そこを避ける。
② １月 11 日（水）第３回避難訓練
ア. 教室から長靴等で避難したが、職員は特に声を掛けることをせず誘導に徹していた。
イ. 本当の災害時、上履き避難だと滑ってしまい、スロープが危険なのでスロープにむしろを敷くなどの対策をする。
ウ. 今回避難した場所には消防車が来る。本当に最終避難場所はあの場所でよいのか検討する必要がある。
エ. 松葉杖の子どもがいたが、職員がやるのには限界があるので、子ども同士で声をかけて一緒に行くなどできるとよい。

4　事業の成果及び今後の課題
今回、学校防災アドバイザーよりアドバイスをいただき、これまでの訓練の方法や内容について、検討していく必要があると感じた。子どもたち及び職員の命をしっかりと守れるように、来年度の避難訓練に向けて、しっかりと検討し修正し実施していきたい。

5　まとめ
学校防災アドバイザーに来ていただき大変意義があった。これからも外部の方に来ていただいて助言をいただきながら、学校の安全防災について考えていきたい。

（文責　講師　北條明浩）

学校安全総合支援事業の取組について

―　１村１校の強みを生かした防災教育―

栄村立栄中学校

1　はじめに

栄村は長野県の最北端に位置し、新潟県津南町が隣接している。村の人口は 1,720 人（令和４年 11 月現在）およそ、その５割が 65 才以上の高齢者、村の高齢化率 53.2%。村には保育園、小学校、中学校がそれぞれ１つずつある。

栄中学校は１学年４名、２学年７名、３学年３名計 14 名の小規模校であり、生徒の６割がスクールバスで登下校している。11 年前の長野県北部地震発生時は幼少期であり、地震当時の記憶はあまりないそうだ。

栄中学校の校舎は、11 年前の長野県北部地震で被害を受けたため修繕されていて耐震基準をクリアしている。また、校舎が高台にあるため、水害・地震の避難場所になっている。

2　栄村立栄中学校の防災体制について（概要）

(1) 本校では、以下の通り年に３回の避難訓練が計画されている。

時期	設定	主な目的
４月	火災	各教室からの避難経路と避難の仕方を確認する。
９月	地震	避難経路の再確認と、引渡訓練。
１月	火災	積雪時の避難経路と避難の仕方を確認する。

(2) 地区の避難所としての機能を果たすため、年に一度、役場担当者が本校３階にある防災倉庫の点検を行っている。

(3) 生徒の６割がスクールバスでの登下校である。運転手は、小学校と中学校の職員と村のタクシー会社職員が行っている。小学校、中学校の職員は村出身者で、村の地形のこと、道路状況のこと、児童・生徒の家庭環境まで熟知しているため、乗り越し等のトラブルはこれまでなかった。そのためか、スクールバス運行マニュアルは整備されていない。

3　学校防災アドバイザーの関わり

夏休みを利用して、学校防災アドバイザーの榊原保志先生に来校いただき、本校の防災教育の取組について大きく分けて以下の５点についてご指導いただいた。

①避難訓練の在り方について

②スクールバス運行マニュアルについて

③生徒・家庭・地域への防災教育について

④避難所開設について

⑤校内の危険箇所について

詳しい内容は以下の通りである。

①避難訓練の在り方について

避難訓練の計画は前述の通りである。各避難訓練の計画を見ていただいたところ、以下の２つについてご指摘いただいた。

ア　２次避難場所の設定がない

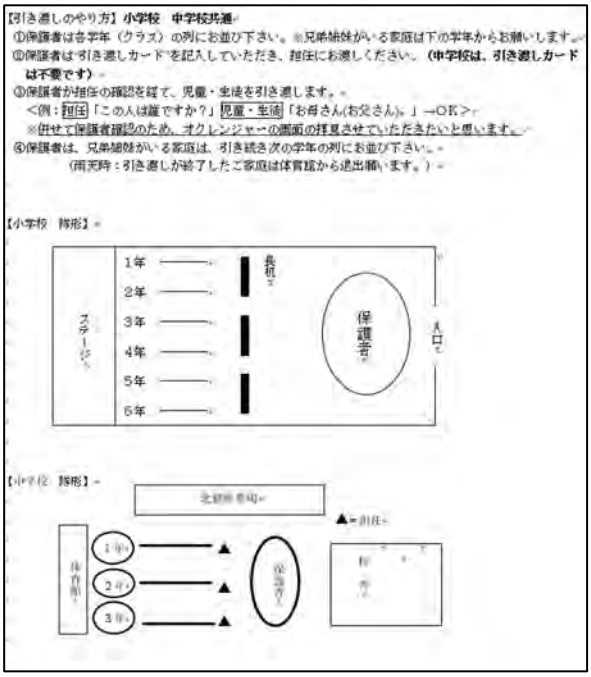
イ　保護者に引き渡すタイミングが明確に決められていない

これまで避難訓練は目的意識を職員や生徒と共有し実施してきたが、指摘の通り、二次避難場所や、保護者への引き渡すタイミングは明確ではなかった。これを受け、二次避難場所を中学校から一番近いこと、駐車場や風雨をしのげる場所が確保されるということから「栄村道の駅」とした。

また、保護者へ引き渡すタイミングを原則、「震度５以上の地震」とし、９月の計画に反映させた。

さらに、榊原先生から、栄村は１村１保育園１小学校１中学校なので、より有事に活かすために同一のタイミングで引渡訓練を行うことを推奨された。早速、教育委員会、北信保育園、栄小学校と連絡を取り、令和５年度から同一のタイミングで保護者への引渡訓練を行うこととした。

（右の一部抜粋資料参照）


【引き渡しのやり方】小学校　中学校共通
①保護者は各学年（クラス）の列にお並び下さい。※兄弟姉妹がいる家庭は下の学年からお願いします。
②保護者は「引き渡しカード」を記入していただき、担任にお渡しください。（中学校は、引き渡しカードは不要です）
③保護者が担任の確認を経て、児童・生徒を引き渡します。
<例：担任「この人は誰ですか？」児童・生徒「お母さん(お父さん)。」→○K>
※併せて保護者確認のため、オクレンジャーの画面の拝見させていただきたいと思います。
④保護者は、兄弟姉妹がいる家庭は、引き続き次の学年の列にお並び下さい。
（雨天時：引き渡しが終了したご家庭は体育館から退出願います。）

【小学校　陣形】

【中学校　陣形】

②スクールバス運行マニュアルについて

榊原先生からは、東日本大震災を事例に、スクールバス運行マニュアルの重要さを指導していただいた。特にスクールバスの運行時に災害が発生した場合の対応について明確な対応についてマニュアルに明記することの大事さを指導していただいた。そこで、スクールバス運行マニュアル、緊急時のフローチャート（運転手向け）、スクールバスの決まり（児童生徒向け）、スクールバス乗降等手順表（学校職員向け）を作成し、教育委員会、小学校と共有した。（右資料は、児童生徒用の「スクールバスの約束」）

スクールバスの約束

安全な運転のための約束です。

①バス到着５分前までに、バス停にいましょう。

②バスに乗ったら、新型コロナウィルス感染症予防のため、窓を開けましょう。（窓から顔や、手は出しません。）

③バスの中ではマスクを着けましょう。おしゃべりしません。

④シートベルトをしましょう。

⑤バスが動いているときは、席から立ちません。

⑥車内の物を大切にし、車内を汚さないようにしましょう。

⑦運転手さんの言うことを聞きましょう。

⑧バスを降りてすぐ、バスの前や後ろを通りません。バスがいなくなってから移動しましょう。

⑨万が一、バスに取り残されたらクラクションを鳴らし続けましょう。

③生徒・家庭・地域への防災教育について

地域の防災力を高めるには、「学校教育において生徒に防災・減災教育を行うことである」と教えていただいた。そこで、村全戸カラー配付している学校だよりを、村の防災力を高めるツールとして活用しようと考えた。

９月の学校だよりを「防災教育特集」として、

ア　家庭での日中、夜それぞれの避難訓練のすすめ

イ　災害発生時のスクールバス運行について

ウ　引渡訓練の目的について

エ　長野県北部震災から復興までの道のり

について掲載した。

長野県北部地震から復興までの道のりは、現栄村公民館長に３回にわたってお話をしていただいた。公民館長は当時、役場にお勤めで自助だけでなく共助、公助の視点からも復興に尽力した。

この学習の様子は信濃毎日新聞社、妻有新聞社で紹介された。（右写真）

④避難所開設について

栄中学校は、地域の水害、土砂災害、地震の避難所に指定されている。11 年前の長野県北部地震の時も避難所として開放した経過がある。今後も避難所として開放することを想定し、校内をどのように使用すれば通常の学校教育に影響なく、避難所としても機能するかレイアウトを考えた。

また、避難所のルールも作成し、誰もが安心して避難生活を送ることが出来るよう、ハード面を整えた。(右はレイアウトの１部抜粋資料)

⑤校内の危険箇所について

定期的な安全点検、さらに毎日の巡回で校内に危険箇所はないつもりでいたが、減災教育の視点で榊原先生に見ていただいたところ、いくつかご指摘いただいた。

地震の際、移動して教室の出入り口を塞いでしまう可能性がある物、飛散フィルムの貼っていない教室の窓、落下防止策のない図書室の本などがそれである。予算の関係上、今年度中に全て対応することは出来ないが、生徒が多くの時間を過ごす教室には、飛散フィルムを貼ることになった。地震の際、出入り口を塞ぐ可能性のある物は撤去、または固定した。

また、校内で火災が比較的発生しやすい理科室、調理室、給食調理室の対策についても再確認した。

⑥防災教育授業について

今年度は社会科２年生の単元の一環で防災教育の授業を行った。

4　事業の成果及び今後の課題

学校防災アドバイザー榊原保志先生から防災教育・減災教育における学校教育のあり方についてご指導いただいたことは、自分自身の中で形骸化されていた安全教育のあり方を見直す大変良い機会となった。

特に引渡訓練の内容を見直したこと、スクールバス運行マニュアルを作成したこと、学校だよりに「家庭での避難訓練」を掲載し、村民の防災・減災意識の向上を図ったことは、これからの教育活動の大きな糧となった。

今後も栄村の地形的な特徴や保育園、小学校との連携、地域や各家庭と連携し、防災・減災教育を進めていきたい。

（文責　教頭　千野　美奈）